

もともとはインフルエンザ用だったけど……

れでも納税されないようだ、いね、窪塚さん！

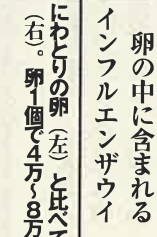
ダチヨウの卵マスク「花粉症撃退」効果をチエツク

厳しかったあの寒さも少しずつ和らぐころ。そう、気がつけばもう3月。いよいよお出かけ日和の春が到来……でも、そんな浮かれモードに水を差すのが花粉症だ。

薬をのんでも、マスクをしなくても、何をやってもダメ。揚げ句の果てには、うらめしく家の中から外を眺める毎日、なんてことに。

でも2月28日、意外な救世主の存在が新聞で一斉に報じられた。

《ダチヨウの卵が花粉症を救う》
発見者は京都府立大学生命



にわとり卵(左)と比べてこんなに大きいダチヨウの卵(右)。卵1個で4万〜8万枚のマスクが作れるという。

環境科学研究科の塚本康浩教授だ。

「春先にダチヨウを見ていたら、まぶたが腫れたり、涙目になってるのがいたんです。そこで血液を調べたら、スギ花粉とヒノキ花粉に対する抗体の値が高く、花粉症状態だったんです。高い抗体は卵にも確認され、これが人の抗体より早く反応するために花粉症対策に使えることがわかりました」

塚本教授は子供のころからダチヨウ好きで、もともとダチヨウを使ったインフルエンザ対策の研究をしていた。

卵の中に含まれるインフルエンザウィ

ルスの抗体を利用してマスクを開発。'08年、共同開発に取り組んでいたマスク製造メーカーの「クロシード」からインフルエンザの抗体マスクを発売した。つまり、すでに発売されているこのマスクが、インフルエンザだけでなく花粉症にも効くというわけなのだ。

早速「クロシード」のダチヨウの卵マスクを試してみることに。5枚入りで1575円(税込)というこのマスク。アルミ袋を開けると、なんだか牧場の干し草のにおいが(気のせい?)。かわいいワンポイントの緑のダチヨウのマークを表にして試着。手触りはさすが1枚300円超とあ

って、しっとりとした方一ぜのよう。息苦しさもなかった。

すでにインフルエンザ予防でこのマスクを使っていたという40代主婦は、あまりの感激に目を輝かせこういった。

「春になると、目がかゆくなったり、鼻水が止まらなくなったりで夜も全然眠れなくなりました。でも、使い始めたら不思議と花粉症の症状が出てこなくなりました。やっぱり効果アリなんですかねえ」
ダチヨウと同じく首を長くして対策法を待ち望んでいた花粉症のみなさん。試してみれば価値はあるかも。

ダチヨウの卵マスク。